

# 「まきこんで」「まかせてみる」ことの大切さ



社会福祉法人  
**内野会** 特別養護老人ホーム **本陣園**  
 SINCE 1981

## はじめに

- 2年間のノーリフティングケアマネジメント研修を終え、令和4年度は本陣園のみでの初めての実践となりました。
- これまでマネジメント研修で培った経験・知識・技術をもとに、より本陣園の実状に適した腰痛予防委員会の体制づくりを進めました。

今回は、皆さまの実践の参考になればと考え、本陣園のノーリフティングケア3年目の体制づくりを紹介します。

## 特別養護老人ホーム本陣園

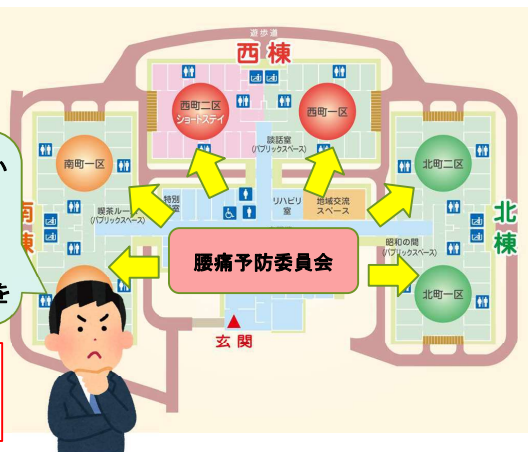
定員：特養50名、SS10名 職員数：53名

10名単位の6ユニットで構成

(3つの町に2ユニットずつ)

- これまでの委員会5名体制では手が行き届かない部分も…
- メインで実践することになる「介護職員」が委員会にもっといたほうがいいのでは？
- 現場が主体となって取り組める仕組みづくりを

本陣園のノーリフティングケアのさらなる発展を目指して、体制を大幅に見直しました！



## 現場が主体的に取り組める施設を目指して

- これまでの腰痛予防委員会



5名の委員が中心となって取り組んでいました。

- 3年目

委員会参加メンバー (腰痛予防対策推進委員)

統括マネージャー (教育担当兼)	江頭施設長	川端	
健康管理担当	谷口	山下	
教育担当兼 福祉用具管理担当 (統括アドバイザー)	(北町)	(西町)	(南町)
	萱島	漢	本間
プランニング担当	荒田	多田	中村副施設長

サブメンバー (推進員)

北町	藤中
西町	梅野
南町	藤井

介護職員を中心に大幅増員規模では本陣園で最も大きな委員会に！

## 現場をまきこんだ大きな委員会へ

頼もしい♪



副施設長(相談員兼務)も委員会メンバーへ！  
委員会の運営や入居者様のアセスメント、リスクマネジメント等で積極的に協力！

各ユニットの有志を委員会メンバーに選任。ユニット単位での教育・福祉用具管理、リスク収集等をおまかせしています。



看護師も2名体制へ！  
職員の健康管理や定期的な腰痛調査等で尽力しております！

各委員の役割を見直し、現場に近い内容はどんどん現場の委員におまかせしていきましました

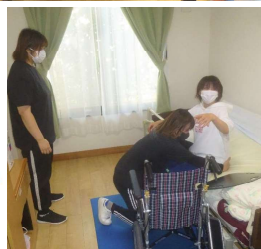
## 新体制が機能するのか不安はあったが...

- 積極的に動き、意見を出し、現場へ働きかける姿が...
- また周囲の一般職員もこれまで以上に協力的で、新メンバーとともに学ぼうとする姿勢がよく見られました。

これまでで一番の盛り上がりへ！

新メンバーの能力や腰痛予防意識の高さに加え、2年間の取り組みが現場に響き、基礎がしっかりできていたのではないかと考察しました。

これまで頑張ってきたことが報われた...



## 「まかせる」ことは丸投げすることではない

重要!

- 目標達成に向けた道筋を示し、各ユニットでの実践状況を把握し、課題を洗い出し、改善策を検討・実践につなげていきます。
- 新たな委員会メンバーをしっかりと下支えして、上手くいかない部分は一緒に解決し、じっくりと知識や技術、経験を積んでもらいます。

古参メンバーはしっかりと「**チームをマネジメントする**」ことが大変重要！



ノーリフティングケアマネジメント研修でコツコツ学び、積み上げてきたことがここで大いに活かしています！



## 新体制での工夫

重要!

- 1~2年目よりも取り組みのペースを意図的に落とし、個々の内容をじっくりと実践！
- 腰痛予防意識や介護技術の定着具合を測るために、定期的なラウンドやアンケートを実施。
- 新メンバーへのサポートを充実！特に介護技術の教育は指導者育成コース修了者が一緒に進めていきます。

どの取り組みもやりっぱなしにせず、**効果の確認とさらなる改善**を意識！必ず定例の委員会で振り返り、改善策を検討します。



## 参考：中長期的な取り組みは計画書に

解決すべき課題

計画と具体的手順  
(誰が、何を、いつまでに、どこで、どうやって)

モニタリングと結果  
(進捗状況は？どう改善されたか、うまくいかなかったところは？)

ラウンド結果とさらなる改善点

この課題は解決できたか

「誰が」「いつまでに」を意識！

解決すべき課題	計画と具体的手順 (誰が、何を、いつまでに、どこで、どうやって)	モニタリングと結果 (進捗状況は？どう改善されたか、うまくいかなかったところは？)	ラウンド結果とさらなる改善点	この課題は解決できたか
解決すべき課題	解決すべき課題	モニタリングと結果	ラウンド結果とさらなる改善点	この課題は解決できたか
解決すべき課題	解決すべき課題	モニタリングと結果	ラウンド結果とさらなる改善点	この課題は解決できたか
解決すべき課題	解決すべき課題	モニタリングと結果	ラウンド結果とさらなる改善点	この課題は解決できたか

## (例) 過程で挙げた課題の解決



業務に追われるとついつい腰痛予防への意識を忘れてしまいます…

では毎日意識する機会を設けましょう！



- オリジナルの腰痛予防体操を作成し、お昼のラジオ体操の前に放送。

⇒定期的に腰痛予防を意識する機会に！

- 会議での周知や、推進委員らによる現場での実演。
- 実践状況の観察や改善策の検討なども抜け目なく行います。



## 常に現場の職員をまきこむ工夫を

- オリジナルの腰痛予防体操は委員会以外の一般職員に声を当ててもらいました。
- それぞれのユニットから人選、複数のパターンを作成し、定期的に放送内容を変更。

小さな事柄でも良いので、**一般職員にも役割を持ってもらう**ことで、施設全体の腰痛予防意識を高めていきます。



体操前の挨拶を理事長や副施設長に吹き込んでもらいました！

遊び心も大切♪



## まとめ

- コツコツとノーリフティングケアを実践し、基礎をしっかりと固めておく。
- 現場で実際に動く職員に委員会へ参加してもらい、重要な役割を担ってもらう。(決して丸投げにはせず、協働する)
- 一般職員にも役割を振ることで施設全体の士気アップ。
- やり始めた取り組みはきちんと記録して管理し、結果はどうかあれ完結させる。

今後も腰痛予防委員会を醸成させ、課題解決をすすめ、施設全体で入居者様と職員の安全衛生を高めていきます！